モンゴル研修に参加して

　　　　　　　　　　　　田中　若奈

　私がモンゴルに行ってみて特に印象に残っている場所、一つ目は、インターナショナルチルドレンセンターです。二日間と言う短い時間の中で、私は沢山の思い出ができました

。チルドレンセンターには内モンゴルから来た子ども達がいました。その子ども達と遊んだり、博物館に行き、モンゴルの歴史や文化を学ぶ事ができました。

　また、チルドレンセンターの部屋の中に、夜、蛾が大量発生すると言うちょっとしたハプニングもあり、更にこの時期の蛾は卵を産み付けると聞いたので、その日はなかなか寝られませんでした。

日本でこの様な経験をした事がなかったから、振り返るとそれもまた良い思い出となっています。

　また、計画していた出し物はできなかったのですが、空いている時間を利用して、折り紙の鶴や紙飛行機などの折り方を教えたり、日本の伝統的な遊びを伝える事ができました

。

　最終日、私達が出発する事に気付いた子ども達が、自分から進んでスーツケースを持ってくれた事に、私は同年代なのに自然とその様な事を行動に移せるなんて、すごいなと感じました。私なら、運んであげたいと言う気持ちがあっても、この人達の様に行動に移せるのか分かりません。日本人は親切にしてあげたい気持ちがあっても、相手がどう思うのか、どう感じるのか、迷惑じゃないのかなど色々考えてしまい、行動に移せない事がよくあるので、まずは、何も考えず親切にしてあげたいと言う気持ちを素直に表現できる様になれば良いのではないかと思います。

　二つ目は、馬に乗った事です。私は、馬に乗ったことは何度かありますが、モンゴルの様な大草原で乗った事は初めてでした。

日本では見る事ができない広大な草原の景色がとってもきれいで、今でも目に焼き付いています。約三十分馬に乗り、ゲルに到着しました。

　そして、私が一番疑問に思っていたゲルでの生活です。モンゴルに行く前に、ゲルの写真を見て、不便そうだったので、中は快適なのか、本当にこの生活が良いのか実際に体験してみたいと思っていました。そのゲルを前に、わくわくしながらゲルに入りました。まず、最初に思ったのは、予想していたゲルの中の様子とは全く違い、ベッド、テーブル、まきストーブ、更にはコンセントや電気まで付いていて、私が考えていた質素な生活ではなく、小さなホテルの様でした。室内の温度もちょうど良くて、虫も思っていたより少なかったです。また、ゲルの中央には二本の柱があり、ゲル全体を支えています。この柱はそれぞれ男と女を表していて二本の柱の間を通る事は、「その家の夫婦の仲を裂く」と言う意味を表し、避けなければいけない事や男性と女性、子どもの空間も分かれているらしいです。私はこの限られた空間で柱の間を通れないのは面倒なのに、昔からの伝統や風習を重んじる民族なんだなと思いました。私達日本人にも、伝統や風習があるけれど最近それを簡素化しようとする風潮が見られます。

その面でも、モンゴルの人達は素晴らしいなと思いました。

　一方で、不便な事もありました。それは水道から水が直接飲めない、トイレットペーパーを流せない事などです。モンゴルは、まだ水まわりが整備されていないから、日本では当たり前の事が出来なくて大変でした。

蛇口をひねれば安全な水が出る、下水道が整備されていて、衛生的にトイレを使用できる

、この様な日本の良い点もこの体験を通じて知る事ができました。

　私が今住んでいる日本と全く違う環境の中でこそ、改めて何の不自由もない生活が送れるありがたみに気付く事ができたり、また逆にモンゴルの様な遊牧生活も長年つちかわれてきた伝統や工夫で不便さを感じさせない生活を送れるんだと言う事も分かりました。

　今回のモンゴル研修に参加して、やはり海外に行く事は「百聞は一見にしかず」、実際に足を運んでみて、その国の人々と交流したり、文化を知る中で、沢山の気付きが得られると言う事が分かりました。私は今まで以上に、海外に興味がわき、チャンスがあれば様々な国へ行き、そこから日本を見る事をしてみたいと思います。そのためにはやはり語学が必要不可欠なので、英語だけではなく、他の国の言語も習得して今後に繋げられる様にがんばります。

　最後に、このモンゴル研修にあたり、私達をサポートして下さった市長をはじめ市職員の皆さん、友好協会の方々、踊りを教えて下さった先生方、そして土屋先生、本当にありがとうございました。